



いまこれ情報局

—今、これを考えてみませんか—



子どもたちの学びを取り巻く環境は、静かに、しかし確実に変わりつつあります。これからは、プログラムを書く、言われた通りにシステムを作るといった「作業としてのITに携わる仕事」は減少していくと言われています。まず、ここで整理しておきたいのが、ITとAIの違いです。ITとは、情報を扱うための技術全体のこと。AIは、そのITの中で、人の判断や作業を助ける仕組みの一つです。AIの進化によって、これまで人が担ってきた作業の一部は自動化されていきます。しかし、ITそのものが不要になるわけではなく、医療・教育・介護・金融・暮らしなど、あらゆる分野にさらに深く溶け込み、社会を支えます。

これから時代に求められるのは、「AIを使える人」や「ITに強い人」ではなく、ITやAIをどう活用し、何を解決したいのかを考え、それを形にできる人です。ITやAIを社会や暮らしの中で活かしていく力が、今後、ますます重要視されるでしょう。

【正解を覚える学びから、考える学びへ】

＜親世代：暗記中心＞

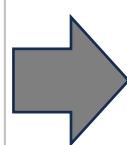
- ・知識を正確に覚える
- ・正解はひとつだけ
- ・早く答えを出すことが重要

＜子世代：思考中心＞

- ・「どう考えたか」を説明する
- ・納得できる答え自分で作る
- ・AIにはできない判断力

AI時代、求められる力は、暗記から思考へと大きくシフト

『解答できる子』ではなく、『問い合わせできる子』を育てる



学校での
体験と経験



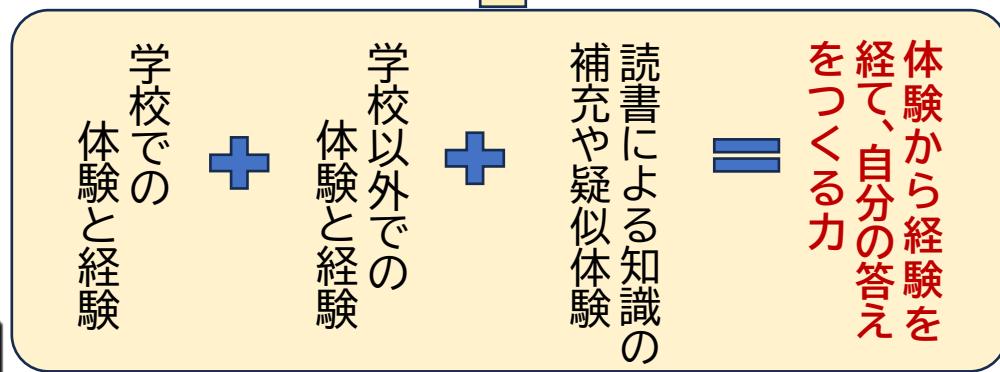
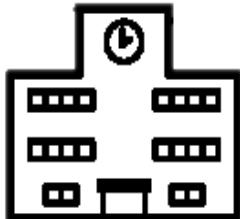
学校以外での
体験と経験



読書による知識の
補充や疑似体験



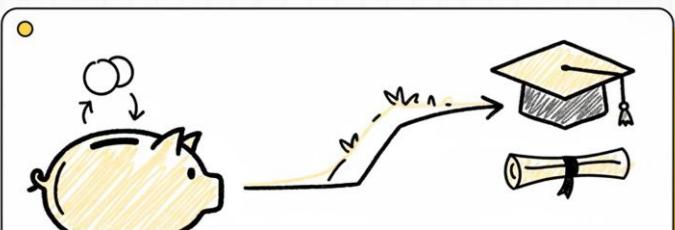
体験から経験を
経て、自分の答え
をつくる力





聴くコラム

親の自己犠牲という パラドックス



親世代が考えておきたい「お金との向き合い方」についてお伝えします



YouTubeハセプロTVもぜひご覧ください。

AIセミナーのチラシで「プロンプト集を無料プレゼント！」という言葉を見たことはありませんか。

プロンプトとは、AIに指示を出すための「言葉」です。AIは理系の技術ですが、実際にAIを動かしているのは、人の言葉です。何をしたいのか、どうしてほしいのかを正しく伝えられなければ、どんなに優秀なAIも、その力を十分に発揮できません。「プロンプト集をプレゼントします」という言葉の裏には、「**言葉で伝えることに難しさを感じている人が多い**」という現実があるかもしれません。

私自身も、AIの活用を始めた当初は、「ちょっと違うな」と感じることが何度もありました。しかし、背景や意図を言葉で伝えられるようになると、AIはしっかりと応えてくれるようになりました。

学研で日々取り組んでいる、「文を正しく読む・問い合わせの意図をつかむ・条件を整理する・順序立てて考える・自分の言葉で説明する」。こうした学びは、**AIに指示を出す力、プロンプトの基礎そのもの**です。

これから時代、国語力は「勉強のため」だけの力ではなく、**社会で道具を使いこなす力**になります。

特に、論理力や表現力、そして英語力は、これからを生き抜力に直結していきます。私は、「学研の勉強」は、AI時代を生きるために**未来対応型の学び**だと感じています。この力を、幼児期・小学生のうちから身につけていくことは、将来、大きな差につながることでしょう。